

斯ういふと、理窟づめに推してばかりあるやうでもあるが、そうでない。こゝに一つの大きな譯は、第二保育期になると、幼児の心構へがぐつと違つて來てゐることである。見上げるほどに、一寸おかしいほどに、幼稚園園児としての生活感情が發展し、確立し、強化してゐるのである。それに裏づけられて、訓練もぐつどし易くなる。軽い意味で自尊心に訴へるといつた譯合である。がしかしまた、そうだから、訓練がむづかしくなるどころもある。すなはち、九月こそは、園児の生活訓練の大切なきつかけになる。しまるのも此の時、ゆるむのも此の時。そう充分にしまることはむづかしいとして、ゆるめないことは、九月の用心といふものであらう。

總じて、幼児は元來がそうじだらくなものではない。躰けといひ訓練といひ、何んだか、外から無理押し、強制的壓力の感じの伴ふのが一般であるが、決して、そうとのみ限らない。それどころか、きちんとした生活は、幼児の自ら求めるところといつてもよい。家庭ではみんながちゃんとしてゐないのに、自分だけちゃんとするのがむづかしかつた。又、なんだか却つてきまりが悪いといつたところもあつた。それが、お休みの間、楽しみに待つてゐた幼稚園、憧れもし、自らの誇りともしてゐた幼稚園へまた來たのである。先生の向きの向けかた一つで、喜び勇んで駆けられるし、求めて訓練されようともするのである。

自由遊戯

上遠文子

幼児ながらも何とはなく緊張した夏休みをすませ、陽焼けした元氣な顔を並べてくれる。

年少組では特に感じられる事ですが、家庭生活にもどりが過ぎ團體生活にもどりにくい此頃の幼児達を、先づ自由遊戯をもつて、早く團體生活氣分に引もどし、家庭幼児であり且幼稚園の幼児たらしめたいものであります。

このことは九月の仕事として先づ考へる事でありませう。

しやがみ鬼 鬼ごつこの類で、しやがみ事を陣の代用とする鬼ごつこで、年少組にもわかり易く、又面白い遊びであります。

兵隊ごっこ(含戦争ごっこ)、何と云つても男の子がもつとも好み、もつとも愉快とする遊びであります。唯の訓練的遊びに止るもの、假想の敵(あるものとしてゐる)のある場合、組の中で、又は他の組と對抗してするもの種々行はれますが、私達は特に、どの程度まで進行して指導すべきかを考へねばなりません。度を過ぎるとその遊戯は争闘に化してしまひます。先づ私達は戦闘が開始されましたら常に監督を忘れぬことです。附屬幼稚園でもどうかすると組對抗の戦が始まりますがしかしその時、戦闘開始か否かは擔任の命令即ち總指揮官の命の下るのを待つ事に約しなす。部隊長、隊長その他は何れも子供達同志で決め合つてゐるも

のです。日頃勢力あるものはやはり部隊長等になります。がこれはまあやむを得ぬ事でありませう。但し部下にやさしいよき部隊長さんたらしめたいものです。機関銃、大砲、すべて積木（長方形のもの）を用ひます。機関銃も大砲も子供達は自由に最新式の型を發明して作つてゐます。「ハッ、敵は一〇米先に追つておられます報告おわり」等びつくりする様に小さい兵隊さんを立派にやつてのけてゐるものほゝえましいものです。戦争が始まると兵隊さんはバタ／＼と負傷して倒れてしまひます。女の子は看護婦さんになり救護所までよいしよ、よいしよとはこんで其處で手當を致します。

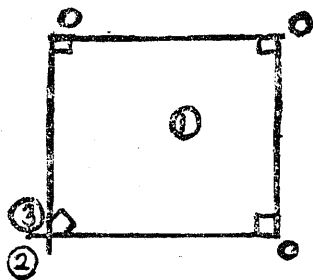
或者は飛行機になり両手ひろげて飛び廻り砂、小石を爆彈の變りど兩手に握り適當な所へ落してゆきます。時には一騎打が始まりますが、あまり粗野な氣分は氣を荒く導きますので止めませう。先生は部隊長になり皆を指揮しても又一兵士になり活躍しても何れでもよい、清い戦である様指導したいものであります。前者は年少組の場合、後者は年長組の場合とも云へませう。

マラソン 常に一定の速度でゆつくりと駈るのも氣持の整然とするよいものであります。廣い野原にハイキングに行つた時、空地、グラウンドへ遊びに行つた時、圓りを二三回まわつてみませう。これは競走にまで發展させるとまだ、子供達にはマラソンの意が解せずどうしてもかけつこになりませうから、マラソンの本質を失はぬ様、最初は五六人なり、又は大勢でも結構。そへて、同じ速度でかける事を致しませう。時には遊戯の時、曲にあわせてマラ

ソンするのもよろしいでせう。そのうちには子供達もマラソンの快調子を感じて來ます。これは私共が先になり指導しなければなりません。

野球あそび 神宮球場でもそろ／＼リーグ戦が近くなつて來ました。大人の世界に吹いた風も子供達の世界へもやつて來ました。

年少組には少しむづかしく年長組の遊びとして致しませう。先づ大きく正方形の線を引き上圖の如く、片隅を本壘にし、他三隅を一壘、二壘、三壘ときめ、上圖の①投手②捕手、③打者、あとは三人でなくとも多くてもよろしいでせう。組を分けてはむづかしいでせう



から、投手、捕手、それ／＼變る事にして、打つて本壘へ歸るまでの遊びとします。始めは三壘に分けて一人々々打つ毎に一壘から二壘へ、二壘から三壘へと變るのはむづかしいでせうから、一壘だけにして置きます。なれたら、一壘づつ増やしてゆきます。總は勿論、布製のものを用ひます。投げてもよろしいですが、轉がす方が危険は少いと思ひます。投手だけは先生がすれば投げるのもかまわないでせう。打者は拳骨が、拳骨に手拭をまきつけ

て打ちます。

遊 戯

古澤 静子

兵隊あそび

大東亞戰爭勃發以來九ヶ月、皇軍の赫々たる戦果は、全世界の驚異と絶讃のうちに、新たなる大東亞の歴史を生みつゝある。

より潑刺たる幼児の身心たらしむべく、今月は戶外運動として「兵隊あそび」を遊戯化してみたいと思つた。即ち、全員集合より、進軍、開戦、攻撃、勝利、凱旋に至ると云ふ物語りを、唱歌遊戯の「兵隊ごっこ」及び「太平洋行進曲」を中心として、正常歩、駈足の豫備運動より、胸背腹平均跳躍等の様々な運動に至るまでの一連の運動形式を含ませて取扱つてみたいと思つたのである。

次に其の形式は、

組の編成……戦争ごっこの場合には敵味方に分れ、男児は兵隊女児は看護婦になつて甲斐々々しく活動するが、こゝでは、男女の別及敵味方の別なく一組全體を日本軍とし、先生を總指揮官に任ずる。そして假想敵軍の前に全面的攻撃態勢をとる。

場 所……園庭

用 具……園庭の地形地物チャングルを利用し、平均臺様のもの、跳越しに適當な箱を用意する。

樂 器……オルガンハーモニカ等、メロデーの出せるものを

用ひ度い。

○所要時間……約三十分

では今から兵隊遊び「南方〇〇島〇〇攻略」をはじめぬ。

一、「集合」指揮官の笛の合圖に依り、全員各所より集り、二列縦隊に整列する。

「忠勇なる我が部隊が〇〇島攻略の爲に集つて参りました」。

二、「進軍開始」敵地へ進軍を開始しました。勇しく歩きませう。一同右臂を曲げて銃をとり、股を高く上げて歩調をとり、行進曲に合はせながら行進する。園庭の廣さに應じ、適當な距離を歩く。

三、「橋渡り」(平均運動)「有名な〇〇河に出ました」そこで工兵隊一四、五人選ぶ。は橋をかけなければならぬ。成るべく幅の狭い平均臺状のものを持つて来て並び、兵隊は列を作つて、一人づゝ渡つてゆく。成るべく急いで渡つて下さい。然し落着いて、河に落ちない様。

四、「クリークにて舟漕ぎ」(背腹の運動) 橋を渡つて暫く進むとクリークに出ました。「皆で舟を漕いで渡りませう」。橋の次に少し歩き、八人乃至十人づゝ縦隊に並び、其の場に止つて、臂の屈伸と共に上體を前後屈しながら舟漕ぎの動作を行ふ。舟の曲で伴奏する。

五、「這ふ」次に敵前上陸を行ふ。一同這ふか、又は上體を全屈して小さくなつて歩く。